

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有					
取組名 No		1	多様な媒体や機会を通じた市民活動や市民協働等に関する情報発信					
P	取組内容		広報あんじょう、生涯学習情報誌「あんてな」などの冊子、SNS、市民活動情報サイトなどのウェブサイトを活用し、市民活動や市民協働に関する情報を発信します。また、多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPR等を行います。					
	課題解決のために行う令和7年度の方策		興味を持ってもらえる内容を検討し、「市民協働」を体感してもらうことで認知度を高めていきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<紙媒体> ・広報あんじょう：市民活動補助対象事業(4月号)、「市民参加と協働」特集ページ(8月号) ・チラシ・ポスター：各地区公民館等(次年度補助金事業の募集等ポスター、チラシ)、市民活動団体へ郵送(市民協働啓発チラシ、補助金事業案内同封) ・生涯学習情報誌「あんてな」：市民活動センターのイベント等を掲載 <SNS> ・交流センターInstagram：団体の活動・イベント紹介	<紙媒体> ・広報あんじょう：市民活動補助対象事業(4月号、9月号) ・チラシ・ポスター：各地区公民館等(補助金事業の募集等ポスター、チラシ)、市民活動団体へ郵送(市民協働啓発チラシ、補助金事業案内同封) ・生涯学習情報誌「あんてな」：市民活動センターのイベント等を掲載 <SNS等> ・市公式LINE：次年度補助金事業の募集、イベント情報等を発信 成果：補助金の申請件数(R8：11件) ・企画政策課「キョウソウマガジン」(メール配信)：あんじょう協働リビングラボ、市民活動成果報告会を掲載 ・交流センターInstagram、市民活動情報サイト：団体の活動・イベント紹介 <イベント> 啓発ブース設置 ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム(協働ペット探しゲーム)を実施 ・参加者数：アンフォーレ(七夕まつり)45人				
			<イベント> 啓発ブース設置 ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム(福笑い)を実施 ・参加者数：アンフォーレ(七夕まつり)65人 市民交流センター(わくわくフェスティバル)86人 <SNS等> ・市公式LINE：次年度補助金事業の募集、イベント情報等を発信 成果：補助金の申請件数が増加(R6：8件→R7：12件) ・企画政策課「キョウソウマガジン」(メール配信)：あんじょう協働リビングラボや市民活動成果報告会を掲載					
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	「市民協働」という言葉の認知度が低く、興味を持ってもらうことが難しいです。					
		課題解決のために行う方策(改善点)	興味関心を持ってもらえる内容を引き続き検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有					
取組名 No		1	多様な媒体や機会を通じた市民活動や市民協働等に関する情報発信					
P	取組内容		広報あんじょう、生涯学習情報誌「あんでな」などの冊子、SNS、市民活動情報サイトなどのウェブサイトを活用し、市民活動や市民協働に関する情報を発信します。また、多くの市民が集まるイベントなどを活用し、市民活動に関するPR等を行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		・引き続き概要版を作成して市内全戸に配布し、受講者の集客に努めます。また、フルカラーでの印刷を生かした上で、講座名の工夫や写真の活用して、わかりやすい情報発信に努めます。 ・詳細な内容については市ホームページに誘導し、情報発信に努めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		生涯学習情報誌「あんでな」 ・年4回発行 概要版：広報あんじょうに折り込み、市内全戸配布 詳細版：地区公民館に冊子を配置、市ホームページに掲載 ・概要版は、フルカラーで見やすくA3表裏1枚にコンパクトに情報をまとめた。また、QRコードを併せて掲載することで、市ホームページへ誘導し、詳細な内容が確認できるようにした ・市民企画講座やものづくり講座、社会課題テーマ講座の情報を定期的に掲載	生涯学習情報誌「あんでな」 ・年4回発行 概要版：広報あんじょうに折り込み、市内全戸配布 詳細版：地区公民館に冊子を配置、市ホームページと広報配信アプリのマチイロに掲載 ・概要版は、フルカラーで見やすくA3表裏1枚にコンパクトに情報をまとめた。各講座のQRコードに加え、タイトル横に市ホームページのQRコードを掲載し、ウェブ詳細版へ誘導する文章を加えた ・市民企画講座やものづくり講座、社会課題テーマ講座の情報を定期的に掲載				
C	施策の進捗度		A	B				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	概要版は紙面に限りがあり、掲載する講座の情報量が必要最低限になってしまうため、情報の整理が必要です。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	・引き続き概要版を作成して市内全戸に配布し、受講者の集客に努めます。また、フルカラーでの印刷を生かした上で、講座名の工夫や写真の活用により、わかりやすい情報発信に努めます。 ・詳細な内容については市ホームページやあんでなアプリに誘導し、詳しい内容の確認ができるような情報誌の作成や市ホームページ上での情報発信に努めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有					
取組名 No		2	団体の情報発信の支援					
P	取組内容		団体がチラシやSNS等を通じて自分たちの活動を自ら発信できるように支援します。また、活動をマスコミに取り上げてもらえるようにするため、団体が自らマスコミへ情報発信できるよう支援します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き、SNSでの発信方法などを気軽に相談できるような機会や環境を作り、団体をフォローしていきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<支援業務> ・日頃から交流センタースタッフによる相談・情報発信支援を実施 <報道機関へ情報提供> ・愛知県から表彰されたボランティア団体（3団体）	<支援業務> ・日頃から交流センタースタッフによる相談・情報発信支援を実施 <報道機関へ情報提供> ・愛知県から表彰されたボランティア団体（3団体） ・メディアに活動を取り上げてもらうため、市民活動補助金本審査の情報を提供				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	SNS等での発信はPRに有効な手段ですが、苦手意識を持つ団体が多くいます。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き、SNSでの発信方法などを気軽に相談できるような機会や環境を作り、団体をフォローしていきます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	地域活動・市民活動に関する情報発信・共有				
取組名No		3	ボランティア活動に関する情報発信				
P	取組内容		社協だよりや社会福祉協議会公式ウェブサイトなどを活用してボランティア活動に関する情報を発信します。				
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き、ウェブサイトや公式LINEアカウントの周知・定着を継続し、新たなSNSツールを活用準備を進め、ボランティア活動に関する様々な情報発信に努めます。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		発信方法：ウェブサイト、メーリングリスト、LINE公式アカウント 内容：ボランティア講座やボランティア活動の様子 頻度：毎月 ・課題：社協からボランティア団体や個人ボランティアへの一方的な情報発信だった ・実施内容：LINEの活用方法を拡大 ・実績：ボランティア団体や個人ボランティアとスムーズにLINEで相互にやりとりができる手段を整備。整備により、配信頻度をこれまでの月1回から、月1回以上配信できるよう拡充 ・展開：新たなSNSツールでの情報発信方法について近隣市町社協に視察に行き情報収集を行った	発信方法：社協だより、ウェブサイト（随時）、LINE公式アカウント（月1～3回程度）、 内容：ボランティア講座の周知及び報告、ボランティア募集案内 結果：LINE機能の拡大により、登録団体や個人ボランティアへ講座や募集案内を直接配信できるようになり、活動申込につながった <様々な媒体を使った発信> 工夫： ・新聞掲載や地元ラジオ、町内会回覧板など多様な媒体を活用、Canvaで各種講座のチラシを作成して町内会回覧板等で配布・周知した ・R8運用予定のInstagram開設に向けた準備を行った 結果：新たな参加者の申込みにつながった			
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成：施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	新聞や町内会回覧板により、これまでボランティアに関わって来なかった人の講座参加につながりました。				
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	若い世代にも情報を届けるため、R8年度中のInstagram開設に向けて準備を進めていきます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域活動・市民活動に関する理解促進					
取組名 No		1	市民活動事例や多様な主体による協働事例の発表会等の開催					
P	取組内容		市民活動や、地域団体、市民活動団体、事業者などの多様な主体による協働事例の発表会、意見交換会等を開催します。 また、より多くの人にみてもらえるように、発表内容を市公式ウェブサイト等で公開していきます。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		市民活動に興味のない方にも参加してもらえる方法を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		市民活動補助金本審査（1月） ・協働事例・市民活動の発表 ・発表団体：5団体（市民提案型事業2団体、行政協働型事業1団体、協働提案型事業2団体）	市民活動補助金本審査（1月） ・協働事例・市民活動の発表 ・発表団体：4団体（市民提案型事業1団体、行政協働型事業1団体、協働提案型事業2団体） 市公式ウェブサイトの公開 ・R7市民活動補助金を活用した事業（3団体）の掲載				
			市民活動成果報告会&あんじょう協働リビングラボ交流会（3月） ・内容：市民活動団体（市民活動補助金交付団体等）の発表及びあんじょう協働リビングラボの社会実験報告、市民活動補助金説明、交流会 ・参加者：補助金交付団体、補助金申請検討団体、リビングラボ参加者など	市民活動成果報告会&市民活動補助金相談会 ・内容：市民活動補助金交付団体の発表市民活動補助金説明、相談会 ・参加者：補助金交付団体、補助金申請検討団体、リビングラボ参加者など ・成果：今後補助金の活用を検討している団体にとって参考にしてもらえた				
C	施策の進捗度		A	B				
			＜進捗度の基準＞ 達成：施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
	令和7年度	実績から見てきた課題	すでに市民活動をしている方の参加に限られています。					
A	令和7年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	開催場所を検討するなど、市民活動に興味のない方にも気軽に参加してもらえる方法を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域活動・市民活動に関する理解促進					
取組名 No		2	協働事例集・チラシの発行					
P	取組内容		市民協働に対する理解を深めてもらうため、団体同士や町内会と団体との身近な協働事例を小冊子（事例集）やチラシなどに整理し配布します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き誰でも参加しやすいイベントを実施し、その場で直接興味を持った方への配布をします。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<協働事例集「コネクトVol.3」> ・市民協働課主催のイベント、新人職員研修、青少年の家「ユースカレッジ」にて配布	<協働事例集「コネクトVol.3」> ・市民協働課主催のイベント、新人職員研修、青少年の家「ユースカレッジ」にて配布 <チラシ> ・直近1年間の市民協働に関する取組みや市民協働とは何かを一枚のチラシにまとめ、補助金の案内に同封・イベント（協働ベツ探しゲーム）等で多くの方に配布				
			<チラシ> ・直近1年間の市民協働に関する取組みや市民協働とは何かを一枚のチラシにまとめ、補助金の案内に同封・イベント等で多くの方に配布					
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
	令和7年度	実績から見えてきた課題	市民活動に興味のない方への周知ができていません。					
A	令和7年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	誰でも参加できるイベントや興味を引く内容での周知を検討していきます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		1	地域活動・市民活動に関する理解促進				担当課	市民協働課（地域振興係）	
基本施策		(2)	地域活動・市民活動に関する理解促進						
取組名No		3	町内会に関する情報提供						
P	取組内容		町内会への理解促進や加入意義の周知のため、活動紹介など町内会に関する情報提供を行います。						
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		町内会の活動についてわかりやすい周知に努め、加入促進につながる情報提供を行います。						
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10		
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<広報あんじょう（5月号）> ・内容：特集で町内会活動の紹介を行い、町内会の副会長へのインタビューを掲載 ・効果：副会長のインタビューを掲載したことで、町内会活動にはさまざまな世代が関わっており、地域のつながりを築くために重要な役割を果たしていると周知することができた <チラシ> ・内容：町内会についての説明を掲載したチラシを作成。（宅建協会から会員事業者へ配付していただくほか、町内会・自治会に配付し、住民への案内に利用できるようにするもの） ・効果：町内会活動について知っていただくきっかけになった	<広報あんじょう（5月号）> ・内容：特集で町内会活動を紹介 ・効果：町内会の年間行事や活動内容を掲載したことで、町内会の活動や、町内会が地域において重要な役割を担っていることについてわかりやすく周知することができた <チラシ> ・内容：町内会についての説明を掲載したチラシを作成。（宅建協会から会員事業者へ配付していただくほか、町内会・自治会に配付し、住民への案内に利用できるようにするもの） ・効果：町内会活動について知っていただくきっかけになった					
				<ポスター> ・内容：町内会についての説明を掲載したポスターを作成。（市民課及び支所に掲示し、転入者や手続きに訪れた市民等に町内会を知っていただくためのもの） ・効果：町内会活動について知っていただくきっかけになった					
C	施策の進捗度		A	A					
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要						
	令和7年度	実績から見えてきた課題	町内会加入率の向上のため、引き続き丁寧な説明が必要です。						
課題解決のために 行う方策 (改善点)		町内会の活動についてわかりやすい周知に努め、加入促進につながる情報提供を行います。							
A									

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり			担当課	市民協働課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり				
取組名No		1	市民協働等に関する情報発信や出前講座の実施				
P	取組内容		市民協働等に関する情報発信や出前講座を実施し、地域活動・市民活動への参加のきっかけづくりをします。				
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		「市民協働」という言葉のハードルを低くし、興味を持ってもらえる方法を検討します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<講義> 青少年の家「ユースカレッジ」：市民参加と協働の講義を実施 <チラシ> 直近1年間の市民協働に関する取組みや市民協働とは何かを一枚のチラシにまとめ、配布 <啓発ブース設置> ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム（協働ペット探しゲーム）を実施 ・参加者数：アンフォーレ（七夕まつり）45人 <チラシ> 直近1年間の市民協働に関する取組みや市民協働とは何かを一枚のチラシにまとめ、配布 <啓発ブース設置> ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム（福笑い）を実施 ・参加者数：アンフォーレ（七夕まつり）65人 市民交流センター（わくわくフェスティバル）86人	<講義> 青少年の家「ユースカレッジ」：市民参加と協働の講義を実施 <チラシ> 直近1年間の市民協働に関する取組みや市民協働とは何かを一枚のチラシにまとめ、配布 <啓発ブース設置> ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム（協働ペット探しゲーム）を実施 ・参加者数：アンフォーレ（七夕まつり）45人 <出前講座> 小学校から「市民協働によるまちづくり」の出前講座依頼 希望：公園の整備のためにどのように意見を収集し反映させるのかを知りたい 結果：公園緑地課へとつないだ			
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見てきた課題	出前講座や講義内容の魅力に欠けていると感じています。				
A	令和7年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	協働を実施している担当課の事例を収集するなどして、魅力ある内容を検討し内容の充実を図ります。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり				
取組名 No		2	市民活動啓発イベントの開催				
P	取組内容		市民活動の紹介や意見交換など、市民活動の魅力を紹介し、参加を促すための啓発イベントを開催します。				
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		まず、誰でも参加できるイベントを開催し、市民活動の魅力を伝える方法について検討します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<啓発ブース設置> ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム（協働ペット探しゲーム）を実施 ・参加者数：アンフォーレ（七夕まつり）45人	<啓発ブース設置> ・内容：景品を配布し協働を体感できるゲーム（福笑い）を実施 ・参加者数：アンフォーレ（七夕まつり）65人 市民交流センター（わくわくフェスティバル）86人			
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	市民活動に興味のない方に、興味を持ってもらうことの難しさを感じます。				
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き誰でも参加でき、市民協働について興味を持つきっかけとなるイベントを検討します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり					
取組名 No		3	子ども地域ボランティア活動の推進					
P	取組内容		地域団体等が主催するイベントや行事等の運営に、小学生や中学生がボランティアとして参加できる仕組みづくりを研究します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き調査を続け、好事例の研究を行います。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		市民交流センター「夏休みこどもあそびひろば」 ・参加者：176名（うち54名は高校生・大学生のボランティア） ・学生ボランティアは団体に所属するというより単発や短期間のボランティアに参加しやすい傾向。市内地区公民館でも公民館まつりなどの当日ボランティアをやってもらうなどの事例があるよう	市民交流センター「夏休みこどもあそびひろば」 ・参加者：102名（うち34名は高校生・大学生のボランティア）				
C	施策の進捗度		B	B				
			＜進捗度の基準＞ 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	ボランティアが盛んな地区の理由を探る必要があります。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	町内会や公民館の取組みを把握し、モデル地区の事例を集めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課（地域振興係）
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり					
取組名No		4	被災地ボランティア活動に対する支援					
P	取組内容		災害の発生した地域で行う災害支援活動、復興支援活動及び被災地の復興につながる交流活動を支援します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		年度初めや大規模災害が発生したタイミングに、広報あんじょうや市公式SNSなどでの情報発信を行います。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<被災地ボランティア活動給付金> 被災地ボランティア活動に対する支援に従事した市民に対して、活動に係る費用の一部を交付 事業の実施に当たっては、安城市社会福祉協議会に事務の一部を委託して実施 ・R6年度実績 延べ人数：58人、給付額合計：348,400円 ・周知 市役所及びアンフォーレのデジタルサイネージにて、災害ボランティアコーディネーター養成講座の受講者募集に併せて制度の支援を行った	<被災地ボランティア活動給付金> 被災地ボランティア活動に対する支援に従事した市民に対して、活動に係る費用の一部を交付 事業の実施に当たっては、安城市社会福祉協議会に事務の一部を委託して実施 ・R7年度実績 延べ人数：36人、給付額合計：258,200円 ・周知 市役所及びアンフォーレのデジタルサイネージにて、災害ボランティアコーディネーター養成講座の受講者募集に併せて制度の支援を行った				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成：施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	同じ対象者に繰り返し給付しているケースが多いため、もっと幅広く利用してもらえるような周知が必要です。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	広報あんじょうや市公式SNSなどでの情報発信を行います。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	地域活動・市民活動への参加のきっかけづくり				
取組名 No		5	ボランティア体験プログラムの開催				
P	取組内容		市内の地域福祉活動を知り、ボランティアを始める機会を提供するために、ボランティア体験プログラムを開催します。				
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		今後も実施時期は8月とし、学校行事などの重なりを回避するとともに、事前説明会の学校開催を維持します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		概要：市内の福祉施設の協力により、ボランティアをしてみたい方の第一歩を応援するプログラム 対象：市内在住または在学の中学生及び高校生、市内在住または在勤の16歳以上の方 実績： ・ボランティアの受け入れ申出施設：市内78施設 ・参加者数：198人 ・ボランティア受け入れ施設：59施設 工夫： ①実施時期：7月を含めた夏休み期間に実施 →8月のみ（部活動の大会など行事が重なることを避けるため） ②参加者が多い学校へは職員が出向きボランティア体験プログラム事前説明会を実施 ・結果：学生への事前説明がスムーズに実施できた	概要：市内の福祉施設の協力により、ボランティアをしてみたい方の第一歩を応援するプログラム 対象：市内在住または在学の中学生及び高校生、市内在住または在勤の16歳以上の方 実績： ・ボランティアの受け入れ申出施設：市内96施設 ・参加者数：180人 ・ボランティア受け入れ施設：73施設			
			<事業PR> 変更点：資料送付し代読で紹介を依頼 →校長会に出向き、事業の紹介 結果：学校からの事業への問い合わせなどが増加	工夫： ①関連事業（福祉施設ボランティア担当者会議）と連携して参加募集を行ったことで、受入申出施設数が大幅に増加し、参加希望者が活動しやすい環境づくりにつながった ②①参加意思確認に Google フォームを導入したことで、施設との連絡・調整を効率化し、迅速かつ正確な情報把握につながった			
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見えてきた課題	受け入れ申出施設は増加した一方で、参加申込者数は大きく伸びておらず、結果として参加者ゼロの施設も生じています。				
A		課題解決のために 行う方策 (改善点)	受け入れ体制の拡大に見合うだけの参加者を確保するため、より多くの市民に本事業の魅力を伝え、参加意欲を高める取り組みに努めます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり			担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域活動・市民活動への参加の担い手づくり				
取組名No		1	市民活動入門講座の開催				
P	取組内容		市内で活動する市民活動団体の活動内容を紹介したり、活動を実際に体験したりする講座を開催します。				
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		結果的に市民活動に参加したくなるような講座を検討します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		「わくわくサロン」〈市民協働に興味のある方や、既に活動している団体を対象とした講座〉 ・6つ開催（子どもの居場所ボランティア、子どもの権利、フードドライブなど） ・参加者：延べ205名	「わくわくサロン」〈市民協働に興味のある方や、既に活動している団体を対象とした講座〉 ・開催：6講座（プログラミング体験会、ゲームで防災、フードドライブなど） ・参加者：延べ191名 あんじょう協働リビングラボの開催 場リスタ（場づくりマスター）講座（リビングラボ全5回のうち、最初2回）（R7～8） ・内容：ファシリテーション等の場づくりスキルを学ぶ講座（場リスタ講座）を実施し、居場所づくりに必要な考え方や手法の習得を図った ・参加者：市民等 約20名 ・結果：参加者同士の関係性構築やチーム形成につながり、その後の社会実験の実施へと展開するなど、主体的な活動の創出につながった			
			ファシリテーションのスキルアップ講座の開催（場リスタ講座 はじめの一歩～あなたも場づくりマスターに～）（R5～6） ・内容：市民活動をする上でだけでなく仕事やプライベートにも活かせるスキル講座 参加者：市民活動という言葉を前面に出さずに開催したため、年代・職業等多様な方が集まった 結果：「仕事で活かしたい」「市民活動を始めてみたい」という声があり大変好評だった				
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見えてきた課題	参加しやすいワードで参加者募集をした結果、実際の内容とのギャップを感じる方がいました。				
A	令和7年度	課題解決のために 行う方策 （改善点）	負担感なく、続けることができる活動の紹介などニーズに合った市民活動へとつなげます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり			担当課	生涯学習課
基本施策		(2)	地域活動・市民活動への参加の担い手づくり				
取組名 No		2	シルバーカレッジの開催				
P	取組内容		熟年世代を対象としたシルバーカレッジを開催し、講座修了者がボランティア活動や地域活動などの多様な活動へ主体的に参加できるよう支援します。				
	課題解決のために行う令和7年度の方策		引き続き毎年、新講師を数名選び、シルバーカレッジの学習内容を魅力あるものにし、市民の参加意欲を高めていきます。 また、地域活動など多様な活動へ主体的に参加することへの関心を高めるよう講座を実施します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<シルバーカレッジ> ・参加者数：1年生32名、2年生19名 ・講座数：1年生24回、2年生23回 ・内容：シルバーカレッジのカリキュラムの中で「ボランティアへの誘い」という講座を市民団体に講師を依頼し、実施。参加者にボランティアへの関心を高めるよう引き続き努めた。シルバーカレッジレベルアップ講座を年3回開催 ・結果：学習意欲はとても高く、学生同士の仲間づくりも活発	<シルバーカレッジ> ・参加者数：1年生23名、2年生29名 ・講座数：1年生23回、2年生23回 ・内容：新たに3名の講師に講座を依頼し、実施した。 ・結果：学習意欲はとても高く、学生同士の仲間づくりも活発 <シルバーカレッジレベルアップ講座> ・参加者：シルバーカレッジ1年生・2年生・OB・OG ・講座数：3回 ・内容：大学教授に講師を依頼し、健康をテーマに脳トレ・体づくり・栄養についての講座を開催した ・結果：現1、2年生とOB、OGの交流を通して、多様なイベント情報の共有や協働して活動するなど、市民活動の裾野を広げることに繋がった			
			<シルバーカレッジレベルアップ講座> ・目的：地域学校協働活動における地域人材発掘 ・内容：安城市の教育の現状とこれからの取組についての講座（「これからどうする！安城市の教育～学校と地域社会～」）を開催 ・結果：地域と学校の連携やコミュニティ・スクールの意義について理解を深めた ・参加者：シルバーカレッジ1年生・2年生・OB・OG				
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見てきた課題	コロナ以後も参加者数は回復していません。背景には高齢者の就業増により受講の時間が取りにくいことに加え、市広報に添付していた生涯学習情報誌「あてな」詳細版へシルバーカレッジ案内を掲載できなくなり、紙媒体中心の高齢者へ情報が届きにくくなっていることがあります。				
A		課題解決のために 行う方策 (改善点)	魅力的な講座内容の構築を行い、高齢者の参加意欲を高めるとともに、開催曜日などを固定して参加しやすい環境に配慮します。 カレッジ生募集の情報発信手段について、多様な取り組みを実施し情報展開を積極的に図ります。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域活動・市民活動への参加の担い手づくり				
取組名 No		3	ボランティア入門講座の開催				
P	取組内容		ボランティア入門講座や手話講座など、新たにボランティア活動を行う人材を育てる講座を開催します。				
	課題解決のために行う令和7年度の方策		引き続き、新たにボランティアを始めたい人に関心を寄せてもらえるような講座内容の工夫を行い、講座の実施に努めます。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<講座の開催> ・対象：新たにボランティア活動を検討している人 ・内容：手話、災害ボランティアコーディネーター等 ・結果：以前から関心が高い講座だったため、満席での開催 <ボランティアマッチングイベント> ・目的：ボランティアに興味がある人とボランティア団体の出会いと交流（R5から開催） ・参加者：24団体（80人）、来場者50人（計約130人） ・工夫：R5年度は社会福祉会館の2階と3階で実施、R6年度は総合福祉センター多目的ホールに変更し、会場全体が見渡せて、来場者が団体ブースを回りやすいように会場配置 ・結果：参加団体同士が互いの活動内容を体験することで活動者同士の交流機会となり、つながりの場として有益だった	<講座の開催> ・対象：新たにボランティア活動を検討している人 ・内容：手話、災害ボランティアコーディネーター等 ・結果：以前から関心が高い講座だったため、満席での開催			
			<新たなPR方法> ・目的：LINEを活用したボランティアとの連絡手段の構築 ・内容：若い世代や高齢世代はメールを使っていなかったり、メールを使っていてもすぐに開かないなど情報がいきなりにくい状況がある。LINEを活用することで、どの世代の個人ボランティアとも連絡を取りやすくしたり、個人ボランティアが受け取った情報を確認しやすくなることを目指す ・実績：LINE活用を先進的に行っている他市社協へ視察し、連絡手段の構築に向けた準備を行った	<新たな講座の開催と展開> ・対象：新たにボランティア活動を検討している人 ・内容： ボランティア入門講座（9月） ボランティア交流会（10月）：既に活動している人同士の交流 ボランティア講演会（2月）：市民活動団体の代表を講師に迎えた連動して開催し、参加者の関心が継続するよう工夫した 結果：半年間にわたり、継続的に活動紹介を行ったことで、ボランティア登録や、活動参加につながった			
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	単発の講座ではなく連続して講座に参加することで、複数回参加する参加者が増え、ボランティア登録や活動参加につながりました。				
		課題解決のために行う方策（改善点）	引き続き、参加者に関心を寄せてもらえるような講座を開催し、新たな活動者の獲得に努めます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(3)	市民協働に対する市職員の理解・参加促進					
取組名No		1	職員向け市民協働研修の実施					
P	取組内容		地域活動・市民活動や市民協働に関する理解と参加を促すため、市職員に必要とされる考え方や姿勢などを学ぶ研修会を開催します。 また、研修に適したハンドブックなどを作成します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		モデルとなる好事例を基に具体的な手法を知るための研修を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		計画策定の際に実施したまちづくりフォーラムの動画視聴 ・参加者：37名 ・結果：市民協働とは関係ないと思っていた部署の方からも、自分の部署でできることはないか考えるきっかけとなったとの意見があった。また、職員研修を動画視聴にすることで、都合の良い時間に見ることができ好評だった 市民協働推進計画の施策実施状況調査シート書き方説明会 ・対象者：取組実施担当者 ・内容：計画の重要ポイントを直接説明をし、シートに記載する際、良いことだけではなく、上手くいかなかったことや関連すること、新たな取組みまでは幅広く記載することを直接依頼	・内容：動画視聴 ①多様な主体との協働について：協働の手法と具体的事例の紹介 ②愛知県が運用する多様な主体との協働を促進するためのプラットフォーム(あいプラネット)活用方法 ・参加者：44名 ・結果：協働の必要性の認識は進んだものの、具体的な活用イメージや取組へのハードルを感じる意見も見られた。なお、ハンドブックについては県が作成した既存資料を使用した 令和8年度に、協働の好事例を実践する地域の一般の方を講師として招へいし、具体的な手法を学ぶ研修を実施する予定				
C	施策の進捗度		B	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	協働をしたいと思える事例の紹介、具体的な方法を求める声があります。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	魅力的な協働事例を紹介し、参加者の質問に応答できる講師を選定して研修を実施します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		2	市民協働の担い手づくり				担当課	市民協働課
基本施策		(3)	市民協働に対する市職員の理解・参加促進					
取組名 No		2	職員の地域活動・市民活動への自主的・主体的参加の推進					
P	取組内容		職員向けに、地域活動・市民活動に関する情報を定期的・継続的に提供し、自主的・主体的参加を促します。 また、ボランティア休暇等の利用促進を働きかけていきます。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		ボランティアに参加した職員の実態を把握し、効果的な情報の提供方法を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		・市民活動センター情報誌「ぼらりん」や講座の案内 ・市民活動補助金の募集を掲載するなどして市職員への情報提供	・市民活動センター情報誌「ぼらりん」や講座の案内 ・市民活動補助金の募集を掲載するなどして市職員への情報提供				
			・県主催の研修「参加to実践研修の周知」「NPOと行政のテーマ別意見交換会」の周知 ・社会福祉協議会主催の「ボラマッチ」の案内掲載 ・アジア競技大会のボランティア募集を周知	・市民活動補助金交付事業、リビングラボ社会実験の周知 結果：H O I C T（保育園登降園アプリ）での配信を通じて職員の参加があった ・ボランティア実績を調査するアンケートを検討				
C	施策の進捗度		A	B				
			＜進捗度の基準＞ 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	適切な対象者に情報を届ける難しさと、ボランティア休暇の取得のハードルの高さを感じます。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	ボランティアに参加した職員の声を周知し、参加を促します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名No		1	ふれあい補償制度の運用					
P	取組内容		地域活動や市民活動に対して、怪我や賠償責任を補償する制度を運用します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き、広報やチラシ、市公式ウェブサイト等で周知を行うほか、必要に応じて保障制度の説明ができる体制を整えます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<周知方法> ・チラシ配布：安城市民交流センター、安城市社会福祉協議会ボランティアセンター、安城市子ども会育成連絡協議会等 ・広報4月号への掲載 ・市公式ウェブサイトへの掲載周知 ・全町内会長へ配布する町内会長ノートに掲載 <実績> R6.4.1～R7.3.31の申請受付件数：20件	<周知方法> ・チラシ配布：安城市民交流センター、安城市社会福祉協議会ボランティアセンター、安城市子ども会育成連絡協議会等 ・広報4月号への掲載 ・市公式ウェブサイトへの掲載周知 ・全町内会長へ配布する町内会長ノートに掲載 <実績> R7.4.1～R8.3.31の申請受付件数：12件 <補償制度の説明> ・「子ども食堂運営者との情報交換会」（子育て支援課主催）にて、補償の対象可否の事例や社協が扱うボランティア保険との違いなど、具体的に説明することができ団体の制度に対する理解が深まった				
			<補償制度の説明> ・「子ども食堂運営者との情報交換会」（子育て支援課主催）にて、補償の対象可否の事例や社協が扱うボランティア保険との違いなど、具体的に説明することができ団体の制度に対する理解が深まった	<補償制度の説明> ・リビングラボで社会実験を行う前の適切なタイミングで説明 <周知> ・市民活動補助金の募集要項に「市の支援」として制度を掲載				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	安心して地域活動や市民活動を行うことができるよう、保障制度の周知が必要です。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	引き続き、広報やチラシ、市公式ウェブサイト等で周知を行うほか、適切なタイミングでの周知を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名 No		2	市民活動センターの相談・コーディネート機能の充実と利活用促進					
P	取組内容		市民や市民活動団体等の「やりたい・やるべき」という想いを実現するため、市民活動センターの相談・コーディネート機能の向上とスタッフのスキルアップを図ります。 また、利用者の声を市民活動センターの運営に反映し、市民活動団体等にとって利活用しやすい施設運営を進めます。					
	課題解決のために行う 令和 7 年度の方策		支援の周知や施設のPRを積極的に行い、ニーズに応じていきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<利用者アンケート> ・要望を確認し、スタッフの創意工夫で改善・対応 <SNS> ・WebやSNSを活用して施設の利用方法を紹介するなどして施設の利用を促すことができた <伴走支援> ・市民活動補助金申請団体へ申請書の書き方やプレゼンテーションの準備、事業実施・啓発など多岐にわたる支援を実施 相談件数：332件 マッチング件数：58件	<利用者アンケート> ・要望を確認し、スタッフの創意工夫で改善・対応 <SNS> ・WebやSNSを活用して施設の利用方法を紹介するなどして施設の利用を促すことができた <伴走支援> ・市民活動補助金申請団体へ申請書の書き方やプレゼンテーションの準備、事業実施・啓発など多岐にわたる支援を実施 相談件数：336件 マッチング件数：48件				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和 7 年度	実績から見えてきた課題	センターの存在を知らない方、存在を知っていても機能・支援を知らない方が多くいます。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	センターの機能を市の広報媒体でもPRし、気軽に相談できる拠点として認知度向上を図ります。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	市民協働課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実				
取組名 No		3	支援拠点施設同士の連携強化				
P	取組内容		市民活動の支援拠点施設同士が、市民活動に関する情報を共有し、それぞれの活動に役立てるため連携していきます。				
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		事業実施する上で上手くいった方法などの情報共有を引き続き行い、ボランティア・市民活動への参加者数の底上げを目指します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		担当者会議：2回開催 ・出席者：各支援拠点の担当者（社会福祉協議会ボランティアセンター、青少年の家ボランティア活動センター、生涯学習ボランティアセンター、市民活動センター） ・それぞれの事業内容等の情報共有や改めて組織の役割分担について確認	担当者会議：2回開催 ・出席者：各支援拠点の担当者（社会福祉協議会ボランティアセンター、青少年の家ボランティア活動センター、生涯学習ボランティアセンター、市民活動センター） ・それぞれの事業内容等の情報共有や改めて組織の役割分担について確認 ・市民活動団体向けの補助金まとめを更新			
			市民活動団体向けの補助金まとめを作成 ・その団体に適した補助金の案内ができるように情報共有することができた				
C	施策の進捗度		A	B			
			＜進捗度の基準＞ 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見えてきた課題	各支援拠点同士、知らずに同じ団体等の支援をしていることも多くあります。				
A		課題解決のために行う方策（改善点）	支援拠点同士連携を強化し、安城市の市民活動・ボランティア活動支援の底上げを目指します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名No		4	生涯学習ボランティアセンター・青少年ボランティア活動支援センターの運営					
P	取組内容		ボランティア活動を通じた生涯学習の充実のため、生涯学習ボランティアセンター・青少年ボランティア活動支援センターを通じて市民のボランティア活動や団体活動を支援します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		・生涯学習ボランティアセンター登録団体へ部屋利用のルールを案内する際、印刷機とコピー機の使用ルールについても周知します。 ・市民活動センター、社会福祉協議会等のボランティアセンター登録者を確認し、これまでのコーディネート例と合致するかを検証します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<生涯学習ボランティアセンター> 登録団体に、会議や打ち合わせなどの活動場所として部屋が利用できるようにした。また、中間支援組織ボランティア支援担当者に職員が出席し、関係機関との情報共有や意見交換を実施	<生涯学習ボランティアセンター> 登録団体に、会議や打ち合わせなどの活動場所として部屋が利用できるようにしている。また、中間支援組織ボランティア支援担当者に職員が出席し、関係機関との情報共有や意見交換を実施				
			<青少年ボランティア活動センター> 地域子ども会のイベント企画について相談を受け、登録ボランティアの紹介や派遣依頼等実施	<青少年ボランティア活動センター> 地域子ども会のイベント企画について相談を受け、登録ボランティアの紹介や派遣依頼等実施				
			<青少年ボランティア活動センター> ・状況：令和6年度事務事業総点検にて廃止という評価 ・理由：登録・派遣業務や登録者が、市民交流センターや社会福祉協議会のボランティアセンターと重複しているため ・今後：子ども会活動のコーディネートにおいて、市民活動センター等ほかのボランティアセンターを活用する場合の方法等を検討	<生涯学習ボランティアセンター> センター利用ルールの整理を行い、登録団体へ部屋利用ルールと併せて印刷機及びコピー機の利用ルールについて周知を行った <青少年ボランティア活動センター> ・今後：令和8年度末の廃止に向け、廃止後の受け皿については社協ボランティアセンター等の活用可能性を含め関係機関と調整し、令和8年度中に代替先の案内・利用調整を行う予定				
C	施策の進捗度		A	B				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
	令和7年度	実績から見えてきた課題	関係機関との情報共有や意見交換を実施しましたが、青少年の家閉館後の運用方針が未整理であったため、登録者確認やコーディネート事例の検証には至りませんでした。 <生涯学習ボランティアセンター> 青少年の家閉館に伴い、生涯学習ボランティアセンターの運営・機能の継続方法（代替拠点、窓口、手続等）が未整理であるため、今後の活用方法を整理する必要があります。 <青少年ボランティア活動センター> 子ども会から継続的な派遣依頼があるため、廃止後を見据え、他機関ボランティアセンターの利用に向けた早期周知と移行準備を進める必要があります。					
A	課題解決のために行う方策 (改善点)	<生涯学習ボランティアセンター> 関係機関との情報共有・意見交換を行い、青少年の家閉館後の運用に向けて、生涯学習ボランティアセンターの利用ルール（部屋利用条件、手続等）を整理します。 <青少年ボランティア活動センター> 毎年同一のボランティアに派遣依頼している子ども会等を中心に、令和8年度中に、他機関のボランティアセンター利用に向けた案内を随時行い、相談窓口・依頼手続等の確認および必要な連絡調整を実施します。						

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	アンフォーレ課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名 No		5	アンフォーレの運営					
P	取組内容		情報発信、市民の学び・健康づくり及び多様な交流と活動を促進する拠点施設として、アンフォーレの利活用促進のための運営を行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		今後も人材の育成を図るボランティア養成講座やスキルアップ講座などを継続して実施していきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<ボランティア養成講座の実施> 目的：既存の読み聞かせボランティアの会員補充 実績：受講生13名のうち6名が5グループへ加入 <スキルアップ講座の実施> 目的：図書館登録読み聞かせボランティアのスキルアップ 実績：参加者18名 子どもの発達に関する知識と選書スキルを身につけることができた <ボランティア読書会の実施> 目的：読書会を通した図書館登録読み聞かせボランティアの交流 実績：10回開催し、各回8名程度の参加	<ボランティア養成講座の実施> 目的：既存の読み聞かせボランティアの会員補充 実績：受講生11名のうち7名が4グループへ加入 <スキルアップ講座の実施> 目的：図書館登録読み聞かせボランティアのスキルアップ 実績：参加者63名（うち読み聞かせボランティア及び学校司書42名） 絵本作家の思いを聞き、読み聞かせ時の参考にすることができた <ボランティア読書会の実施> 目的：読書会を通した図書館登録読み聞かせボランティアの交流 実績：10回開催し、各回8名程度の参加				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	養成講座の実演時、ボランティアグループによって選書の偏りがあります。 ボランティア読書会の参加者の固定化しています。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	グループメンバーへ養成講座の聴講及び読書会への参加を呼びかけます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	生涯学習課
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名No		6	地区公民館の運営					
P	取組内容		学習機会や交流の場であるとともに、地域に軸足を置いた地域のまちづくり・ひとづくりの拠点施設として機能するよう、公民館講座を実施して新規自主グループを育成するなど、地区公民館の運営を行います。					
	課題解決のために行う令和7年度の方策		・個別施設計画を計画どおり着実に遂行するため、予算に紐づいた計画の見直しをしていきます。 ・継続的に自主グループの活動を紹介することや自主グループ主催の講座を開催することにより、自主グループの組織化の促進及び継続的な活動を支援します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<保全改修工事> ・内容：施設保全計画に基づき、中部公民館、二本木公民館の保全改修工事を実施 ・結果：施設の長寿命化を図ることができている ・計画に基づき予算の執行、改修工事ができており、計画の見直しは必要なかった <活動支援> ・自主グループの組織化の促進及びメンバーの減少抑止のため、市内で活動する自主グループを冊子にまとめて各公民館の設置するほか、自主グループ主催講座を開催（23グループが実施・参加者数88人）	<保全改修工事> ・内容：施設保全計画に基づき、北部公民館、安祥公民館の保全改修工事を実施 ・結果：施設の長寿命化を図ることができている。また、予算執行及び工事は計画どおり進捗しており、計画の見直しは必要なかった <活動支援> ・自主グループの組織化の促進及びメンバーの減少抑止のため、市内で活動する自主グループを冊子にまとめて各公民館に設置するほか、自主グループ主催講座を開催（25グループが実施・参加者数81人）				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	・施設の長寿命化を図るため、引き続き施設保全計画に基づく計画的な維持管理が必要です。 ・自主グループの継続的な活動や新たな参加者の確保を図る必要があります。					
		課題解決のために行う方策（改善点）	・個別施設計画が計画どおり着実に遂行できるためには、予算と紐づいた計画の見直しが必要です。 ・自主グループの活動紹介や主催講座の開催を通じて、新規自主グループの組織化及び継続的な活動を支援します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名No		7	ボランティア保険の周知と加入促進					
P	取組内容		安心してボランティア活動に取り組めるよう、ボランティア保険の周知と加入促進を行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き、加入案内を行い、活動者が安全・安心に活動ができるよう支援を継続します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<ボランティア活動保険> 実施内容： ・年間を通じて、ボランティア活動保険の加入受付を実施 ・社協ウェブサイトやボランティアセンター公式LINE、窓口での相談時に随時案内 結果： ①令和6年能登半島地震の被災地で災害ボランティア活動を行う個人ボランティアが増加 ②保険加入者数も増加。R6年度加入者数：1,871人（前年度から169人増加） ③保険請求：R5年2件→R6年4件 <行事用保険>（地域福祉活動やボランティア活動に関わる行事に活用できる） 実施内容：電話や窓口で紹介し、加入受付 結果： ①R6年度加入件数：60件（前年度から4件増加） ②保険請求：R5年1件→R6年0件 <移動支援活動保険> 実施内容：新たに移動支援活動を始めようとする団体に対して、移動支援活動の保険手続（愛知県社協）の相談を実施	<ボランティア活動保険> 実施内容： ・年間を通じて、ボランティア活動保険の加入受付を実施 ・社協ウェブサイトやボランティアセンター公式LINE、窓口での相談時に随時案内 結果： ①前年度増加していた令和6年能登半島地震に伴う災害ボランティア向け保険加入は、今年度は減少した。R7年度加入者数：1,833人（前年度から38人減少） ②保険請求：R7年3件 <行事用保険> 実施内容：電話や窓口で紹介し、加入受付 結果： ①R7年度加入件数：73件（前年度から13件増加） ※利用団体の活動拡大に伴い保険加入件数が増加した ②保険請求：R7年0件				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	被災地支援に伴う保険加入数は落ち着きましたが。コンスタントにボランティア保険加入は継続しています。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き、加入案内を行い、活動者が安全・安心に活動ができるよう支援を継続します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実					
取組名No		8	福祉センターの運営					
P	取組内容		地域福祉活動を行う拠点施設としての役割を発揮させるため、福祉センターの管理運営を行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		同じ業務を担うセンター担当者を定期的に開催し、職員同士で相談できる場を設けます。また、相談記録書の様式を統一し、窓口での相談記録を整理して残すようにします。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<管理運営>（市内7か所の福祉センター） 社協だよりには、毎年福祉センターに関する記事を掲載しPRを行った <相談窓口>地域福祉の拠点として身近な福祉の相談窓口となるよう、センター利用者への積極的な声かけに努めた <主催事業>（市内8か所の福祉センター） ・内容：介護予防のための運動系の講座やサロン、絵画や書道などの文科系の講座やサロンを開催した 新型コロナウイルス感染症のため、外出を控えていた高齢者や障がい者も外出や社会参加を再開し、参加者が増加した	<管理運営>（市内7か所の福祉センター） 社協だよりには、福祉センターに関する記事を毎年掲載しPRを行った 社協ウェブサイトや地区社協だよりを通じてPRを行った <相談窓口>地域福祉の拠点として身近な福祉の相談窓口となるよう、センター利用者への積極的な声かけに努めた 事例を通じた勉強会をセンター担当会で開催した <主催事業>（市内8か所の福祉センター） ・内容：介護予防のための運動系の講座やサロン、絵画や書道などの文科系の講座やサロンを開催した ・相談記録書の様式を統一し、各福祉センターにおいて統一様式による相談記録の運用を開始 ・福祉センターの事業へ継続的に参加する利用者が増え、講座やサロンの参加者数増加につながった				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	新たな参加者を増やすことがあまりできていません。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	SNSを利用した周知等新たな啓発を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	市民活動の拠点施設と支援機能の充実				
取組名 No		9	社会福祉協議会ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実				
P	取組内容		社会福祉協議会ボランティアセンターなどにおいて、ボランティア活動に関する相談を受け付けます。また、ボランティア活動をしたい人と、ボランティアを必要とする人や団体、福祉施設とのコーディネートを行います。ボランティアコーディネーターとしてのスキルアップを図ります。				
	課題解決のために行う令和7年度の方策		SNSなどの情報発信ツールを活用して、ボランティア団体の活動写真や動画を掲載し、活動状況を見える化していきます。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<福祉施設ボランティア受入担当者会議> ・参加：39施設 ・内容：ボランティアセンターの相談機能の紹介や、現在のボランティア受入れ状況について情報交換 ・成果：コロナ禍を経て、ボランティアの受入れを再開したいと考える福祉施設の要望を確認でき、実際にボランティア派遣依頼や相談が増加。ボランティアが福祉施設で活動を行った <生活支援ネットワーク会議>（地区社協・生活支援コーディネーター主催） ・内容：地域課題やボランティアニーズの把握・ボランティアセンターの周知 ・成果：ボランティア依頼につながり、ボランティアが福祉施設や地域で活動を行った <中間支援組織会議> ・参加者：市民協働課、ボランティアセンター、市民活動センター、生涯学習課、青少年の家 ・市民活動、ボランティア活動推進のための情報・課題共有を実施（ボランティアコーディネーターのスキルアップ） ・愛知県ボランティアコーディネーター養成講座の受講 ・災害ボランティアセンター運営に係る講演会や研修に参加	<福祉施設ボランティア受入担当者会議> ・参加：37施設 ・内容：ボランティアセンターの相談機能の紹介や、現在のボランティア受入れ状況について情報交換。福祉施設からボランティアセンターのコーディネート事例を報告。 ・成果：新たな福祉施設からのボランティア派遣依頼や相談が増加。 <生活支援ネットワーク会議>（地区社協・生活支援コーディネーター主催） ・内容：地域課題やボランティアニーズの把握・ボランティアセンターの周知 ・成果：ボランティア依頼につながり、ボランティアが福祉施設や地域で活動を行った <中間支援組織会議> ・参加者：市民協働課、ボランティアセンター、市民活動センター、生涯学習課、青少年の家 ・市民活動、ボランティア活動推進のための情報・課題共有を実施（ボランティアコーディネーターのスキルアップ） ・愛知県ボランティアコーディネーター養成講座の受講 ・災害ボランティアセンター運営に係る講演会や研修に参加			
			ボランティア団体の紹介 現状：団体名と活動概要を掲載した紙面を作成し、ウェブサイトで掲載、窓口で配布 改善：ウェブサイトやSNSを活用した情報発信に着手	ボランティア団体の紹介 前年度に着手したウェブサイトでの情報発信について、団体の活動状況が分かる写真や動画の掲載を開始した			
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見てきた課題	ウェブサイトで団体の活動状況がわかる写真や動画の掲載を開始しましたが、まだ掲載数が少ない状況です。				
A		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き、登録ボランティア団体の活動写真や動画をウェブサイトに掲載し、多くの人に活動状況が伝わるように努めます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名 No		1	団体同士がつながる交流会の開催					
P	取組内容		地域団体や市民活動団体、事業者などがそれぞれの活動を理解し、それぞれが顔見知りとなることで、新たな協働を生み出すことを目的とした交流会を開催します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		事業者にとって社会貢献がイメージアップにつながるというメリットとなることをPRし、参加を促します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<交流会> ・内容：市民交流センターまつり「わくわくフェスティバル」の後に実施 ・結果：団体同士のマッチング（27件） その後のイベント実施（5件）	<わくフェスお疲れさま会> ・内容：市民交流センターまつり「わくわくフェスティバル」の後に実施。参加団体が飲食をしながら交流し協働アイデアを引き出し合う ・結果：マッチング件数(10件) その後のイベント実施(4件)				
			あんじょう協働リビングラボ交流会 ・開催経緯：市民活動成果報告会の発表団体が少なかったこともあり、あんじょう協働リビングラボの過去参加者にも周知して、市民活動成果報告会と同日に交流会を開催 ・結果：市民活動成果報告会には補助金活用団体以外の方の参加も多くあった。安城をより良くしたいという思いの方が集まり、「新しい出会いがあった」など刺激を受けた方も多くいた	<安城を話そう！つながろう団体交流会2025> ・内容：市民活動の推進と協働を図るひとつの方法として、コミュニティスクール構想を知り、自分たちにできることは何かを考え話し合う ・参加者：30人 <わくセンカフェ> ①"お抹茶処ひごろもそう"の茶話会 ・内容：登録団体をファシリテーターとして招き、集まった人たちでまちや暮らしの話をした ・参加者：延べ25人 ②ねえねえセンター長聞いて！！みんなで話そうわくセンカフェ ・内容：テーマを絞り込まず、集まった人たちが持っている情報や興味から話を広げた ・参加者：3人				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	多様な主体の交流ができていません。					
		課題解決のために行う方策（改善点）	団体のステージごと、課題意識（テーマ）ごとなど、様々な交流の場を設けます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	市民協働課(地域振興係)
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名No		2	町内会同士の課題や情報共有、交流の促進					
P	取組内容		町内会長同士が意見や情報を交換する場を設け、各町内会で抱える課題や運営・活動ノウハウの共有を図ります。					
	課題解決のために行う令和7年度の方策		引き続き意見交換会を年間事業の一つとして実施するほか、町内会の運営・活動に役立つ情報交換ができる研修会などの実施に努めます。また、実施にあたっては参加する町内会にかかる負担を考慮し、効率的な開催に努めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		意見交換会(7月)、砺波市・加賀市への視察研修会(11月)を実施。 町内会長同士の意見・情報交換の場とすることができた。 <R6年度実績> 意見交換会出席人数：51人 視察研修会出席人数：29人	意見交換会(7月)、町内会活動に関する講演会(11月)を実施。 町内会長同士の意見・情報交換の場とすることができた。 <R7年度実績> 意見交換会出席人数：56人 視察研修会出席人数：46人				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成：施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	町内会長の交代頻度は町内会によって異なり、毎年交代する場合もあるので、毎年継続して情報交換の場を設定する必要があります。					
	令和7年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き意見交換会を年間事業の一つとして実施するほか、町内会の運営・活動に役立つ情報交換ができる研修会などの実施に努めます。また、実施にあたっては参加する町内会にかかる負担を考慮し、効率的な開催に努めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	生涯学習課
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名 No		3	市民企画講座の充実					
P	取組内容		現代的な課題の解決に向けて、学びたいことや取り組んでみたいことを市民活動団体自らが企画・運営する市民企画講座の充実を図ります。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き市民団体が集まる市民交流センター、公民館で市民企画講座の周知・募集を行います。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		講座開催数：上半期に4講座、下半期4講座 参加者数：計152名 周知・募集方法：生涯学習情報誌「あんでな」や市ホームページに掲載し、チラシを各公民館や市民交流センターほか各福祉センターやアンフォーレ等に設置して講座企画の募集を実施	講座開催数：上半期に4講座、下半期4講座 参加者数：計101名 周知・募集方法：生涯学習情報誌「あんでな」や市ホームページに掲載し、チラシを各公民館や市民交流センターほか各福祉センターやアンフォーレ等に設置して講座企画の募集を実施				
C	施策の進捗度		A	B				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	講座を企画・運営する市民団体の活動がコロナ禍以降も停滞しており、講座企画団体が減少傾向にあります。					
		課題解決のために行う方策（改善点）	引き続き、生涯学習情報誌「あんでな」や市ホームページへの掲載、各施設へのチラシ設置により周知を行います。また、募集条件の見直しを行います。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名 No		4	町内福祉委員会研修会の開催					
P	取組内容		町内福祉委員会の活動を活性化し、委員の意識と知識を向上させるために、町内福祉委員会全体研修会などの研修会を開催します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		活動の状況や活動する者が課題と捉えていることの把握に努め、効果的な研修会の内容を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		町内福祉委員会全体研修会 参加者：205人 内容： ・町内福祉委員会の活動発表（高棚町福祉委員会、コープ野村新城福祉委員会） ・日本福祉大学中央福祉専門学校校長の長岩嘉文氏による見守り活動をテーマとした講演及び活動報告に対するコメント	町内福祉委員会全体研修会 参加者：188人 内容： ・町内福祉委員会の活動発表（篠目福祉委員会、東尾福祉委員会） ・日本福祉大学中央福祉専門学校校長の長岩嘉文氏による子ども・子育てサロンの取組みをテーマとした講演及び活動報告に対するコメント				
C	施策の進捗度		A	A				
			＜進捗度の基準＞ 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	町内福祉委員会活動を継続するためには、活動する者が必要とする情報を市社協及び地区社協が提供し続ける必要があります。					
		課題解決のために行う方策（改善点）	活動の状況や活動する者が課題と捉えていることの把握に努め、効果的な研修会の内容を検討します。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実			担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援				
取組名 No		5	地域福祉活動を推進するための研修会の開催				
P	取組内容		地区社協主催の地域福祉活動勉強会や防災・福祉の研修会、ハートフルケアセミナーなど、地域生活に密着した講習会を実施し、個別テーマごとの実践者の育成を行うとともに、他地域の先進的な活動事例などを紹介し、活動のヒントを得られるような研修会を開催します。				
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		新たな活動に結びつくよう、引き続き、勉強会や生活支援ネットワーク会議を開催します。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<地域福祉活動勉強会> 地区社協主催で中学校区単位で開催 <生活支援コーディネーターによる生活支援ネットワーク会議> 地域が抱える課題や活動について協議	<地域福祉活動勉強会> 地区社協主催で中学校区単位で開催 <生活支援コーディネーターによる生活支援ネットワーク会議> 地域が抱える課題や活動について協議			
			<地域福祉活動者勉強会> 参加者：167人 目的：災害現場に関わった方の声からこれからの自分たちにできることを考える 内容：「過去の災害の教訓から学ぶこと」 静岡県富士市社会福祉協議会（水害の事例）、東日本大震災や令和6年能登半島地震の支援を行った方（地震の事例）の講演	<大府市地区福祉委員会・安城市町内福祉委員会交流会> 参加者：27人（安城市）（大府市：24人） 目的：大府市及び安城市の地区社会福祉協議会活動に取り組む活動者の交流を図り、地域福祉への理解を深め、地域課題への対応について考える 内容：各市の活動紹介、意見交換、全体講評（日本福祉大学中央福祉専門学校校長 長岩嘉文氏）			
C	施策の進捗度		A	A			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見えてきた課題	ワークショップ等を通じて住民の地域課題を把握したが、今後どのように活動を展開していくかが課題です。				
A	令和7年度	課題解決のために 行う方策 (改善点)	新たな活動に結びつくよう、引き続き、勉強会や生活支援ネットワーク会議を開催します。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		3	活動場所と団体に対する支援の充実				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	地域課題解決につながる地域活動・市民活動の支援					
取組名No		6	生活支援ネットワーク会議の開催					
P	取組内容		市民・事業者・専門職等の様々な主体と協力しながら、地域の高齢者をはじめとする住民が安心して暮らしていける仕組みづくりを進めるため、地区社協単位で生活支援ネットワーク会議を開催します。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		活動者が必要とする情報交換の場づくりを継続するとともに、新たな活動の創出ができるよう、福祉事業所をはじめとする関係機関との連携を図ります。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<生活支援ネットワーク会議> 内容：日頃から活動者と連携や協働する中で把握した地域課題ごとに生活支援ネットワーク会議を開催し、参加した活動者で情報交換、活動創出を検討 ・会議回数：34回（8地区の合計） ・参加延べ人数：805人 ・テーマ把握から活動創出の例： 認知症について広く知ってもらう必要がある→認知症啓発イベント（おれんじフェスタ2024）への協力など	<生活支援ネットワーク会議> 内容：福祉事業所や行政機関等の関係機関と連携し、日頃の活動を通じて把握した地域課題ごとに生活支援ネットワーク会議を開催し、情報共有や意見交換、活動創出の検討を行った ・会議回数：21回（8地区の合計） ・参加延べ人数：361人 ・テーマ把握から活動創出の例： 認知症について広く知ってもらう必要がある→認知症啓発イベント（おれんじフェスタ2025）への協力、中学生認知症サポーター養成講座の企画検討、事業者の連携による送迎支援の取組み等				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 A：取組内容は実施でき、課題が解決できた B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	移動支援など新たな地域課題について話し合うことができたが、認知症に関する内容が多数を占めています。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き、活動者が必要とする情報交換の場づくりを継続するとともに、新たな活動の創出ができるよう、福祉事業所をはじめとする関係機関との連携を図ります。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援					担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援						
取組名 No		1	市民活動補助制度の運用						
P	取組内容		「市民協働推進基金」を財源とする市民活動補助制度を運用し、地域が抱える諸課題を解決するための市民活動を支援します。 また、時代ニーズに合った制度として機能するよう、適宜制度のバージョンアップを研究・検討します。						
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		他市の制度の研究をし、安城市にあった方法を検討します。						
D	年度		R6		R7		R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果				市公式LINEでの補助金募集周知 ・これまで情報が届かなかった方の目に留まる機会が増えた ・申請件数も増加（R6：12件→R7：14件（1次7件、2次7件）				
			補助金のバージョンアップ ・課題：申請期間2か月間（9・10月）で、事業実施まで半年以上間が空いてしまう ・改善：思い立った時にすぐに申請したいというニーズに応えるため、2次募集を開始 ・周知：チラシや広報あんじょう、LINE配信、補助金説明会などを実施 ・申請件数：7件 補助金募集要項の工夫 ・補助金活用事例の発表動画をみることができる二次元コードを掲載 ・実際に補助金を活用した団体の生の声を聞くことができ、補助金を申請するハードルを少し低くすることができた 市公式LINEでの補助金募集周知 ・これまで情報が届かなかった方の目に留まる機会が増えた ・申請件数も増加（R6：8件→R7：12件）		<補助金様式の変更> ・課題：①補助額の低いスタート事業でも書類作成が負担、 2年目以降の申請団体の昨年度からの変更点が分からない。 ②団体によって事業計画書の記載事項に差がある ・改善：①スタート事業の書類の記載項目を減らした 2年目以降の団体に前年度の反省点欄を設けた ②必須記載事項の項目を設け、記載しやすい工夫をした <相談会の開催>（3月） 内容：補助金交付団体成果報告会に併せて、説明会・相談会を実施 結果：補助金活用を検討している8団体から、直接質問を受け付けた <Youtube動画配信> ・相談会に参加できない団体でも、補助金の主旨を理解してもらうため動画を作成 <他市の制度研究> ・より良い補助金制度のために他市の補助金を調べ、比較				
C	施策の進捗度		A		A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要						
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	周知を図り、団体からの相談・意見を聞くことで多様なニーズがあることが分かりました。						
		課題解決のために行う方策（改善点）	制度の趣旨を踏まえ、団体のニーズを取り入れながらバージョンアップを図ります。						

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援					
取組名 No		2	市民協働推進基金の運用					
P	取組内容		市民協働によるまちづくりを財政面から支援する「市民協働推進基金」を運用するために、市民に向けた啓発を行います。 また、基金を有効活用します。					
	課題解決のために行う 令和 7 年度の方策		企業の社会貢献が注目されている中で、企業へ「寄附の制度」の周知する方法を検討します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		・基金への寄附について広報へ掲載 ・チラシやポスターの設置 ・市民協働課のイベント時にPR 					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援					担当課	市民協働課（地域振興係）
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援						
取組名 No		3	町内会補助制度の運用						
P	取組内容		地域団体等の活動の場である、町内公民館の施設整備のための補助制度を運用します。 また、地域の連帯感の醸成や良好なコミュニケーションの形成を図るための町内会活動に対し補助制度を運用します。						
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		各補助金の制度について、町内会長連絡協議会の際に町内会ノートとして配付・案内します。 また、R6年度から新たに実施した町内会長研修（主な対象：新しく町内会長となった人）における補助金制度の説明を継続して行います。						
D	年度		R6	R7		R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		・町内公民館の改修・借地等に係る費用の一部を町内公民館建設費等補助金として、町内公民館に設置するAEDの新設・更新に係る費用の一部をAED設置費補助金として交付 ・町内会活動に係る費用に充てられるものとして、町内会活動事業補助金を交付 <R6年度実績> ・町内公民館建設費等補助金（改修）33件、補助総額：14,624千円 ・町内公民館建設費等補助金（借地）9町内会、補助総額：4,674千円 ・AED設置費補助金 5件、補助総額：1,096千円 ・町内会活動事業補助金 全81町内会、補助総額：120,676千円	・町内会長連絡協議会において町内会ノートを配布し、各補助制度の案内を実施 ・新任町内会長を対象とした町内会長研修において、補助制度の説明を実施 ・町内公民館の改修・借地等に係る費用の一部を町内公民館建設費等補助金として、町内公民館に設置するAEDの新設・更新に係る費用の一部をAED設置費補助金として交付 ・町内会活動に係る費用に充てられるものとして、町内会活動事業補助金を交付 <R7年度実績> ・町内公民館建設費等補助金（改修）42件、補助総額：13,574千円 ・町内公民館建設費等補助金（借地）9町内会、補助総額：4,686千円 ・AED設置費補助金 8件、補助総額：1,907千円 ・町内会活動事業補助金 全81町内会、補助総額：120,676千円					
C	施策の進捗度		A	A					
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要						
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	町内会が計画的に町内公民館等を整備できるよう、補助金制度について情報提供する必要があります。						
		課題解決のために行う方策 (改善点)	各補助金の制度について、町内会長連絡協議会の際に町内会ノートとして配付・案内します。 また、R6年度から新たに実施した町内会長研修（主な対象：新しく町内会長となった人）における補助金制度の説明を継続して行います。						

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	市民協働課
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援					
取組名 No		4	民間助成制度に関する情報提供の実施					
P	取組内容		民間で行われている助成制度の情報を定期的に収集し、市民活動情報サイトやSNS、市民交流センター館内掲示などの方法を使って積極的に配信するとともに、相談支援を行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		申請書の記入支援など、市民活動センターでのサポート内容をPRします。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<情報提供> 市民活動情報サイト、SNS、館内掲示等 <相談支援> 市民活動団体の活動内容や団体のニーズに合った助成金を紹介、申請書の書き方相談	<情報提供> 市民活動情報サイト、SNS、館内掲示等 <相談支援> 市民活動団体の活動内容や団体のニーズに合った助成金を紹介、申請書の書き方相談				
			「補助金・助成金・クラウドファンディング活用説明会」の開催 ・市民活動補助金に限らず、様々な制度を紹介 ・市民活動補助金を活用し、現在はクラウドファンディングで資金を集めて自立自走している団体の発表の場を設けた	Youtube配信 内容：令和6年度に実施した、「補助金・助成金・クラウドファンディング活用説明会」の動画を配信。 効果：説明会に参加するのはハードルが高い方、日時を併せて参加するのが難しい方も気軽に情報を得ることができている				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成：施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
	令和7年度	実績から見えてきた課題	団体が抱える課題はそれぞれあり、知りたい内容も様々なため講座を開催することが難しいです。					
課題解決のために 行う方策 (改善点)		団体の状況に応じて、個別相談で様々な状況提供をしていきます。						
A								

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援					
取組名No		5	地域福祉活動に関する助成制度の運用					
P	取組内容		町内福祉委員会による地域福祉活動を支援するため、助成を行います。 また、助成申請にあたっての相談や申請書類作成にあたってのサポートを行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		各助成事業が適切に活用されているか、助成した活動の状況を注視していきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		町内福祉委員会活動への資金助成について現行の助成事業を継続 1 地域見守り活動推進事業 要支援者を地域で見守り、支える体制づくりを進めるため助成 実績：76町内福祉委員会 金額：2,280,000円（3万円／地区） 2 町内福祉委員会活動推進特別事業 地域住民が主体となる先駆的な福祉活動を推進するため、生活支援活動やサロン活動に対し補助 実績：60町内福祉委員会 金額：1,800,000円（上限3万円）	・町内福祉委員会活動への資金助成について現行の助成事業を継続 ・助成金の申請書及び実績報告書、支払関係書類を確認するとともに、必要に応じて活動現場を訪問し、助成事業の実施状況や活用状況の把握に努めた 1 地域見守り活動推進事業 要支援者を地域で見守り、支える体制づくりを進めるため助成 実績：76町内福祉委員会 金額：2,280,000円（3万円／地区） 2 町内福祉委員会活動推進特別事業 地域住民が主体となる先駆的な福祉活動を推進するため、生活支援活動やサロン活動に対し補助 実績：64町内福祉委員会 金額：1,920,000円（上限3万円） 3 子ども・子育てサロン補助金 子どもや子育て世代が参加するサロン活動に対して補助 ・実績：16サロン（17町内福祉委員会） 金額：465,000円（上限3万円）				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	各助成事業が町内福祉委員会の支援につながっているのか、活用状況を把握する必要があります。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	各助成事業が適切に活用されているか、助成した活動の状況を注視していきます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(1)	補助金など活動資金面の支援					
取組名No		6	ボランティア活動支援のための助成実施					
P	取組内容		ボランティア活動の活性化や活動者の資質向上及び増員のための助成、ボランティア活動を行うために必要な備品購入費用の助成を行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き、現在の助成要件を継続し、活動者が活用しやすい助成制度を提案します。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<活動活性化応援助成> ・制度見直し 申請要件：ボランティアセンター登録後3年以上の活動実績のある団体 →登録年数制限を撤廃 ・交付件数：R5：0件→R6：5件 <活動備品等助成> ・制度見直し 申請要件：ボランティアセンター登録後3年以上の活動実績のある団体 →登録後1年以上 ・交付件数：8団体 <研修助成> 交付件数：3団体	<活動活性化応援助成> 申請要件：変更なし ・交付件数：7件 <活動備品等助成> 申請要件：変更なし ・交付件数：3団体 <研修助成> 交付件数：4件（内訳：団体3件、個人1件）				
				<移動支援活動保険> 実施内容：市主催の移動支援活動団体向け研修会において、ボランティア助成制度の周知を行った				
C	施策の進捗度		A	A				
	<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容は実施できなかったが、課題が解決できなかった C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要							
	令和7年度	実績から見てきた課題	活動活性化の諸謝金項目の内容として、要約筆記者派遣料について申請があり、検討の結果諸謝金項目に含み承認を行いました。					
課題解決のために 行う方策 (改善点)		活性化助成の諸謝金項目の内容に要約筆記者派遣料も加え、活動者が活用しやすい助成制度を提案します。						
A								

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援			担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援				
取組名 No		1	スキルアップ講座の開催				
P	取組内容		地域団体や市民活動団体のメンバーのスキルアップや組織経営能力の向上を目指し、時代やニーズに応じた、ICTスキルの向上、ファシリテーションなどに関する講座や、財務処理やNPO法人設立の方法など団体の組織基盤を向上させるための講座を開催します。				
	課題解決のために行う令和7年度の方策		引き続きニーズの把握に努めます。				
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<スキルアップ講座>（市民交流センター） ・講座数：3 ・内容：資金調達のための説明会、コミュニケーション勉強会、市民活動情報サイト操作方法説明会 ・参加者：計50名	<スキルアップ講座>（市民交流センター） ・講座数：3 ・内容：市民活動情報サイトの使い方講座、Instagram勉強会、外国にルーツを持つ子どもたちへのやさしい日本語ボランティア講座 ・参加者：計60名 <スキルアップ講座>（市民協働課） 場リスタ（場づくりマスター）講座（リビングラボ全5回のうち、最初2回）（R7～8） ・内容：ファシリテーション等の場づくりスキルを学ぶ講座（場リスタ講座）を実施し、居場所づくりに必要な考え方や手法の習得を図った ・参加者：市民等 約20名 ・結果：参加者同士の関係性構築やチーム形成につながり、その後の社会実験の実施へと展開するなど、主体的な活動の創出につながった			
			ファシリテーションのスキルアップ講座の開催（場リスタ講座 はじめの一步～あなたも場づくりマスターに～）（R5～6） ・内容：市民活動をする上でだけでなく仕事やプライベートにも活かせるスキルアップ講座 ・参加者：市民活動という言葉を前面に出さずに開催したため、年代・職業等多様な方が集まった ・結果：「仕事で活かしたい」「市民活動を始めてみたい」という声があり大変好評だった				
C	施策の進捗度		B	B			
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要				
	令和7年度	実績から見てきた課題	団体によって求めている支援が様々です。				
A		課題解決のために 行う方策 （改善点）	各団体のステージに応じた支援を検討し、講座に反映させます。				

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	市民協働課
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援					
取組名 No		2	市民活動団体運営支援					
P	取組内容		団体が持続的に発展していくために、相談・コーディネートなど伴走支援等により団体の支援をします。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		団体に寄り添いニーズの把握に努めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		・伴走的支援：日頃から団体のステージやニーズに応じて情報提供・相談 ・ファンドレイジング：市民交流センターまつり「わくわくフェスティバル」においては参加者が頑張っている団体に投票をし、その投票数に応じてバザーでの売上金を団体に分配 ・フードドライブ：年に2回開催し、子ども食堂を開催している団体へ寄附	・伴走的支援：日頃から団体のステージやニーズに応じて情報提供・相談 ・ファンドレイジング：市民交流センターまつり「わくわくフェスティバル」においては参加者が頑張っている団体に投票をし、その投票数に応じてバザーでの売上金を団体に分配 ・フードドライブ：年に2回開催し、子ども食堂を開催している団体へ寄附				
C	施策の進捗度		A	A				
			＜進捗度の基準＞ 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見てきた課題	団体によって求めている支援が様々です。					
		課題解決のために行う方策 (改善点)	引き続き団体に寄り添い、ニーズの把握に努めます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	市民協働課（地域振興係）
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援					
取組名 No		3	町内会運営支援					
P	取組内容		町内会の円滑な運営や事務の効率化を図るため、町内会長や役員として必要な知識や情報、運営ノウハウ（ICTスキル）等を習得するための研修や情報提供を行います。					
	課題解決のために行う 令和7年度の方策		引き続き町内会長研修及びパソコン研修を年間事業の一つとして実施するほか、町内会運営により役立つ内容に更新していきます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		町内会関係者向けのパソコン研修を実施 ・目的：パソコン技能の向上により町内会事務の効率化と活性化を図るため ・対象：町内会に関係する方（公民館、福祉委員会、子ども会等の関係者も可） ・出席人数：29人	町内会関係者向けのパソコン研修を実施 ・目的：パソコン技能の向上により町内会事務の効率化と活性化を図るため ・対象：町内会に関係する方（公民館、福祉委員会、子ども会等の関係者も可） ・出席人数：44人 町内会長研修（6月）を実施 ・内容：補助金に関することを中心に、町内会から市の各部署へ提出いただく書類や各種制度などについて案内 ・主な対象：新しく町内会長や役員となった人 ・出席人数：44人				
			新たな研修として町内会長研修（6月）を実施 ・内容：補助金に関することを中心に、町内会から市の各部署へ提出いただく書類や各種制度などについて案内 ・主な対象：新しく町内会長や役員となった人 ・出席人数：37人					
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
	令和7年度	実績から見えてきた課題	町内会長の交代頻度は町内会によって異なり、毎年交代する場合もあるので、毎年継続して研修を実施する必要があります。 研修内容について、より町内会長が知っておきたい制度や事業内容に更新していきます。					
A		課題解決のために 行う方策 （改善点）	引き続き町内会長研修及びパソコン研修を年間事業の一つとして実施するほか、町内会運営により役立つ内容に更新していきます。					

第3次安城市市民協働推進計画 施策実施状況調査シート

基本方針		4	資金・組織体制の充実支援				担当課	社会福祉協議会
基本施策		(2)	団体の組織基盤整備に関する支援					
取組名No		4	ボランティア養成講座の開催					
P	取組内容		ボランティア団体を活性化し、継続的な活動のために、技術ボランティアや福祉学習の講師団体をサポートするボランティアの養成講座、ボランティア活動の機会づくりや意欲向上につながる講座を開催します。					
	課題解決のために行う令和7年度の方策		引き続き、IT推進講座では高齢者をはじめ、どの世代の活動者にもわかりやすい講座内容を工夫し、活動者の意欲向上につながるよう努めます。					
D	年度		R6	R7	R8	R9	R10	
	実績／ 関連・新たな動きや成果		<技術ボランティア講座> 技術取得に時間を要する音訳、点訳、文字支援講座を1年ごとに交代で実施 ボランティア活動を検討している人向けの講座（点訳、福祉学習サポーター）を開催 <Instagram講座> 目的：ボランティア活動者の情報発信を支援（R5はLINE講座） 開催状況：2日間開催し満席となり、関心の高さを感じられた <情報交換&交流会> 目的：安城市ボランティアセンターに登録している個人ボランティア同士が互いの悩みや新たなアイデアを共有 参加者：10人 結果：各々これまでの活動を紹介、情報交換を実施	<技術ボランティア講座> 内容：技術取得に時間を要する音訳・点訳・文字支援講座を1年ごとに交代で実施し、文字支援講座を3日間開催。また、ボランティア活動を検討している人向けに、傾聴講座と福祉学習サポーター講座（座学編・実践編の2回）を開催。 成果：文字支援講座の受講後、文字支援ボランティア団体への加入につながった。 <Canva講座> 目的：ボランティア活動者の情報発信を支援 開催状況：前年度に実施したInstagram講座に続き、2日間開催し、両日参加する受講者も見られた <災害ボランティア講座> 災害時活動できる専門技術を持ったボランティアの育成を目的として新規講座として開催。実際に被災地で活動している団体代表を講師に招いた 参加者：34人 結果：重機の資格を持った人や、災害ボランティアに関心のある市民の参加があった				
C	施策の進捗度		A	A				
			<進捗度の基準> 達成： 施策自体の達成 B：取組内容は実施できたが、課題が解決できなかった A：取組内容は実施でき、課題が解決できた C：取組内容を実施できなかった・大幅な改善が必要					
A	令和7年度	実績から見えてきた課題	災害ボランティア講座では、被災地支援活動に関心をよせる市民が多くいることが伺えました。					
		課題解決のために 行う方策 (改善点)	引き続き、被災地で活躍する講師による災害ボランティア講座を開催し、被災地技術系ボランティアの育成に努めます。					